

27番（高木佐一郎君）〔登壇〕

それでは、私の一般質問をさせていただきます。今回私が通告をいたしておりますのは1項目であります。テーマは、自分のまちは自分でつくる・市民公益活動推進についてということであります。

市民公益活動という言葉自体は、実は私もつい最近になるまで余り使用しておりませんでした。たまたまインターネットで行政的な資料を検索いたしておりましたら、福岡市の条例の中に福岡市市民公益活動推進条例というのがありまして、興味半分でのぞいて見たところ、今の私の問題意識と全く同じものがありましたので、ここでぜひ今回武雄市でも市民公益活動推進ということで取り上げていただきたいということで、通告をいたした次第であります。

公益活動という言葉自体は大変難しいわけではありますが、今、武雄市、あるいは周辺どこの市町でもそうですが、市民協働、あるいは市民と市の行政との協働作業と、そういうことで今既に進められているものであります。今回新しく武雄市の総合計画が策定をされるということで、昨日議員にも配付をされました武雄市総合計画を見ておりました。やはりその中にも具体的に1つの項目として、この市民参加、あるいは参画ということが取り上げられております。

ただ、残念なことに、武雄市の総合計画だけではないんですけれども、旧武雄市の総合計画を見ても市民参加というのは一番最後の章になっております。ある面では、るる行政の課題を述べてきた中で、一番最後に市民の皆さんの市政への参加をということと呼びかけてあります。逆に言うと、つけ足し的な、そういう内容であったのかもしれませんが、しかし、これからは、これが行政の一番先の課題として取り上げていかなければならないのじゃないかというふうに私は考えております。

私の前に松尾議員が武雄市の財政の問題について質問されました。大変厳しい財政状況であります。そのことは、私も含めまして行政に携わる方はすべて頭の中に入っていることだろうというふうに思っております。

私も一つ具体的な数字を見てまいりました。実は武雄市の人口は5万3,000弱であります。同規模の人口を持つ全国の市町村、4万5,000から5万5,000人で輪切りをして、その財政状況を全部チェックいたしました。89市町がありました。総務省が出しております決算カードという財政資料がございますが、それを全部引き出してみたところであります。その中には、いろんな財政上のすべてが網羅されておりまして、これ1枚を見れば大体その市町村の状況というか、財政的な状況がすべてわかるというふうになっております。それを比較しておりまして、その中に財政力指数というのがあります。財政力指数というのは、1を基準にしまして、1.0ということになれば地方交付税が国から来ないと、それを下回れば地方交付税が交付をされると、そういう数字であります。

89の市町の中で、武雄市が大体どれくらいの財政力指数にあるのかということでもあります。

実は武雄市の平成17年度の指数でありますけれども、財政力指数は0.44であります。これは89のうちの60番目です。ですから、同じ0.44の数字を持つのがほかにあと3つありましてので、端的に言うと60番台、あとは少ししかないと、そういう状況であります。

おしなべて、じゃあ同じぐらいの規模の自治体はそんなふうに財政力が弱いのかというふうに思いますと、実は不交付団体、財政力指数1以上のところが既に3つぐらいあります。いわゆる国から普通交付税はもらっていないそういう団体もあるわけでありまして。ですから、一言で言うと大変武雄市の財政は、厳しいというよりも財政力が弱いと、そういうふうに思うわけでありまして。

一方、もう1つその中にあったのが、実は一般会計から他の会計へ繰り出す部分であります。それは松尾議員の方からも質問というか、話がされておりましたけれども、実は他会計への繰出金が実は武雄市は2,721,133千円を出しております。下水道に560,324千円、上水道に434,591円、病院会計に198,852千円、工業用水に78,000千円、国保に480,785千円、その他ということで1,040,581千円、トータル27億円を200億円弱の会計から繰り出しをしているという状況であります。ですから、これぐらいの繰り出しで今は済んでいるわけでありまして、しかし、繰り出しそのものは、下水道にしても、病院にしても、工業用水にしても、国保についても、これが下がるということはなかなかないだろうというふうに思うわけでありまして。ですから、今からは厳しい財政の中でやりくりしていくんですが、今までみたいに、いわゆる行政頼みの市民生活のあり方というのは、なかなかないのではないかというふうに思います。そういう面では、市民から自主的にみずからこのまちづくりを進めていくという、そういうことで行政と私たち市民との間の責任分担というのが明確にやっばり必要になっていくのではなからうかというふうに思っております。

そういう意味で、ぜひこの公益活動推進のための条例をつくって、そして自分たちのまちは自分たちでつくるといふ、そういう行政、武雄市を目指していかなければならないというふうに思っております。そういうことで、公益活動の現状を含めまして条例化の考え、そして育成をするための施設をどのようにしていくのか、行政、市長の考えをお聞きしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

基本的に条例は考えません。というのも、条例をつくることで事足りるというのではなくて、むしろ、その条例というのは、いろんな公益活動があったときにその不備になる部分について補うための条例だったらありだというふうに考えております。幸いに、今武雄は特に高齢者のおばあちゃんを中心にして、さまざまな活動を展開しようとしていただいております。それを後押しするためのもの、条例、補助金というのはあるかもしれません。

それと、さっき施設の話が出ましたけれども、今CSOの活動拠点施設として「がばい館」がJR九州北方駅舎に設けられて市民公益活動のサポートを今していただいております。そういうことで、ぜひ議員各位も御覧になっていただいた上で温かい御支援をいただければありがたいというふうに考えております。

その上で、基本的に、何というんですかね、やはり「もの」というのは見えるもの、あるいは動くものに対して市民の方々が乗っていくもんだということを、この1年を通じて学んだことであります。そういったことを、我々、あるいは議会、そして市民の皆さんたちが、その動きが出た場合にそれを後押しすることが大事なんではないかというふうに考えております。例えて言うと、今、橘町でJAの空きが出るという話が出ています。私は、例えばそこを橘のおばあちゃん方が管理をして、そこで足りない機能であるとか、そういったものを付随的に中の改修をしたり、そういう役割がこれからの市民の公益活動ではないかというふうに考えております。具体例を1つ申し上げましたけれども、基本的な方向性としてはそのように考えております。

議長（杉原豊喜君）

27番高木議員

27番（高木佐一郎君）〔登壇〕

条例については考えていないと。しかし、実質的な意味で、公益活動については市長としては積極的に応援をしていきたい、バックアップをしたいという答弁でありました。私も、その点についてはそれで十分だろうというふうに思っております。

私が一番びっくりしたのが、わかもんプロジェクトということで、市長の発案で今取り組まれております。いろんな取り組みがされているんですね。まさに、あれが本当の公益活動なのかなというふうに思っております。あれは、まあ呼びかけは行政サイドのほうから、市長のほうから呼びかけをしていますけれども、実質的な運営とか、あるいは今後の方向というのはそのグループの中でそれぞれやっている。言うてはおかしいんですが、従来の行政の枠ではなかなか出てこない発想があそこで議論をされている。議論というか、取り組みをされているということで大変いいなというふうに思っております。あと僕も10歳ぐらい若かったら、わかもんに入ってやりたいなというくらいです。今からでもまだ間に合うかとは思いますが。別に名称はですね、たまたま「わかもん」ということでありますので、先ほどおっしゃる「がばい館」の問題、がばいでもいいだろうし、私は、元気のいいクラブでもいいだろうし、そういうことで進めていただきたいというふうに思っております。

たまたまインターネットで公益推進ということを検索しておりましたら、実は高槻市の公益推進活動の分が出てまいりました。これは平成15年ということでありまして、高槻市市民公益活動推進方針、市民公益活動の推進についてということと具体的な内容を網羅されております。1つの具体的な計画として出されているわけでありまして。

武雄市でも、ぜひこういうことが欲しいのですよね、私はですね。そういうところで、これから団塊の世代が退職をされる。それで地域に帰られる。しかし、なかなか地域の中で何をするのかなということで、いろんな模索をされている話も聞きます。「図書館が休みやけど、高木君どこか行くところかなかな」という話がですね、そういう話もあるんですよ。現実、今まで仕事をしていて、いきなり出なくなって、一日家におるとということにも息詰まりがするということで、何かをやりたいけど、どこに行けばいいのかというのがなかなかわからないということがありますので、ぜひ行政サイドで積極的にやっていただきたいと思います。

それから、注文であります。先ほど総合計画について言いました。今回の新しい武雄市の総合計画も一応目を通しました。武雄市の総合計画ということで、イラスト入りのやつがあります。これはこれで、非常に見やすくいいというふうに思うわけですが、具体的に分野ごとの課題と施策の基本方向についてということもあります。こういう、ここで公益活動、市民協働のところを見ると、残念ながらまだまだ、武雄市としてどういうふうな方針を持っていかうかということがその中にまだ出ていないなというふうに思うんですよ。ですから、もっとこの市民協働ということ、あるいは公益活動の推進ということをもっと前面に出していただいて、佐賀県では多分一番進んでいる、九州でも一番進んだまちだということで評価されるぐらいの活動に力を入れてほしいというふうに思っております。そのためには、条例、条例ができなければ具体的に今実際の部分があるし、やはり方針も明確にしてほしいというふうに思っております。

そういう面で、今後の計画を含めて、何か具体的にこういうことをやりたいということがあれば、一言つけ加えていただければいいかというふうに思いますが、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

高槻市の例を出していただきましたけれども、実際それを起案したのは私であります。うまくいっていません。そこでうまくいったのは、やはりそういう文言は幾ら書いても、それは空念仏と一緒にです。そういったことで必要なのは、でも、実は一番役に立っているのは、その付録としてNPOの、高槻には54NPOがあります。その所在地だったり、活動内容をわかりやすくリーフレットに、しおりにした……（発言する者あり）これについては非常に好評であります。

そういったことで、もし武雄が高槻等を見習うとするならば、NPOとかそういうグループの活動内容がわかるような冊子をつくりたいというふうに考えております。その上で、基本的に市民公益活動というのは、私は仲間やっていたりもものだというふうに思うんですよ。団塊の世代の方々がこれから退職をされて地域に帰られるときというのは、行政が入

っていくというよりは、むしろ皆さんたちで、仲間でやっていくと。行政としてはそのための情報をきちんと出すという、その役割というのはあるのではないかなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

27番高木議員

27番（高木佐一郎君）〔登壇〕

端的に言うと、私の一般質問はこれで終わるわけでありませけれども、活力のあるまちというのは、あらゆる面で人をどんどん呼び寄せてくる、人が人を呼んでくるというふうに思うんであります。そういう意味では、武雄市というのは新しく1市2町でできましたけれども、やっぱり人が人を呼んでくるような、そういうまちづくりをやらなきゃいかん。それは、今いみじくも市長が言ったように、行政だけに任せてはやっぱり失敗するだろうと思うんです。そういう意味で、私も地域、市民一人一人が主人公だと、私がやるんだということがぜひ盛り上がるようにしていきたいというふうに思っております。

最後に1つだけ要望なんですが、先ほど高槻が失敗したというお話でありました。しかし、武雄の場合、今からいろんな意味で勉強していくわけでありませので、ぜひ高槻に担当課の職員をやっていただいて、成功の部分、失敗の部分、そういう研修をさせていただけたらというふうに思います。このことを要望いたしまして、私の一般質問を終わります。